

Press Release



報道関係者各位

2026年2月16日

Hmcomm株式会社
(東証グロース 265A)

Hmcomm、山形県企業局と連携し、
設備の故障予兆検知の実現に関する取り組みを開始

“音”から価値の提供を目指す、Hmcomm株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下 Hmcomm）は、山形県企業局(所在地：山形県山形市、企業管理者：松澤 勝志)と連携して進めている水道インフラ向け AI 異常検知ソリューション「FAST-D モニタリングエディション」を活用した設備の故障予兆検知の実現に向けた取り組みを開始することについてお知らせいたします。

【取り組みの背景と内容】

水道インフラをはじめとする社会インフラ分野では、設備の老朽化と人手不足が同時に進行しており、従来の定期点検中心の保全手法のほかに、人手不足やノウハウの継承を含めた効率化のニーズが高まっております。Hmcommは、設備が発する「音」をAIで解析する異音検知技術を強みとしており、その技術を水道インフラの維持管理に応用する可能性を検証するため、本実証導入を開始しました。

2025年4月30日に開示した本取り組みでは、山形県企業局が管理する送水ポンプ場のほか複数拠点にて実施しており、AIによる音響解析を活用した設備モニタリングの有効性と、現場業務での実用可能性を検証してまいりました。実証期間中、実際にポンプ設備の異常停止が発生したケースにおいて、異常スコアの上昇と実故障（自動停止）との整合性が確認できました。同時に、現場業務での実用可能性を検証する中で、故障検知だけでなく、故障予兆の検知を実現できれば将来的に設備保全業務の高度化につながるという見解を得ることが出来ました。

■（参考）2025年4月30日開示のプレスリリース

[Hmcomm、山形県企業局と連携し、AIを活用した設備モニタリングアプリ「FAST-D」による送水ポンプの異常検知を開始](#)

【今後の取り組み】

Hm c o m mは、今回の実証内容を踏まえ、次のステップとして故障予兆検知に向けたデータ取得・検証に対する取り組みを開始いたします。将来的に故障予兆検知の機能を実装することで、設備管理の高度化にむけたサービスの提供を目指します。Hm c o m mは今後も、「音×AI」による新たなインフラ保全のあり方を追求し、社会インフラの安全・安心・持続性向上に貢献してまいります。

【Hm c o m m株式会社について】

会社名 Hm c o m m株式会社

所在地 東京都港区芝大門2-11-1 富士ビル 2F

代表者 代表取締役社長 CEO 三本 幸司

設立 2012年7月

事業内容 音響AI技術の中核としたソリューションの研究・開発、提供

URL <https://www.hmcom.co.jp/>

Hm c o m mは、音響AI技術をベースに多様な業界向けソリューションを提供しており、社会インフラ分野では「FAST-D」による設備モニタリングや漏水検知といった取り組みを通じて、老朽化が進む社会インフラの維持管理に貢献してまいります。

【山形県企業局について】

・自治体名 山形県企業局

・URL <https://www.pref.yamagata.jp/kensei/shoukai/soshikiannai/kigyoo/>

・所在地 〒990-8570 山形県山形市松波二丁目8-1

・事業内容 電気事業、工業用水道事業、公営企業資産運用事業、水道用水供給事業

<本リリースに関するお問合せ>

報道関係者様：Hm c o m m株式会社 IR担当 hm_ir@hmcom.co.jp

企業様：Hm c o m m株式会社 営業統括部 sales_team@hmcom.co.jp

TEL：03-6550-9830 FAX：03-6550-9831